

森と共に生きるまち宍粟の

みどりじまん新聞



Vol. 4

令和3年5月号

6月から授業が始まり、本格的に森林林業について学び始めました。チェーンソーを持って山を登り、実際に木を伐り倒す実習はなかなか難しく、倒れる方向や伐る角度を何度も確認して伐っていきます。倒した

なぜか、そうならないためにはどうすればいいのかなどを学びました。これは木が放出したりすることが原因です。【図1】

「市内をめぐって木を学ぶ」
研究者 宮本 郁

私は、森林大学校入学のために令和2年3月に宍粟市にやってきました。住むのは初めてですが、祖父母が住んでいる町なので馴染みがあり、新しい生活に不安はありませんでした。森林大学校に来て約1年が経ち、森林林業について学び、興味を持ったことを紹介します。

入学直後から新型コロナウイルスの影響により休校になってしまいました。その期間は自宅学習となり、空いた時間に宍粟市内にあるホームセンターを巡り、木や工具、金具を買って簡単な本棚や収納を作っていました。使用する木材を探すうちに、集成材や合板、SPF（北米産の針葉樹から伐りだした木材）、MDF（木繊維を接着剤で加工した木材）など一括りに「木材」と言ってもたくさん種類があることが分かりました。見た目もさまざま、色も一つひとつ違っており、木工に興味を持つきっかけになりました。



【写真1】チェーンソー実習の様子

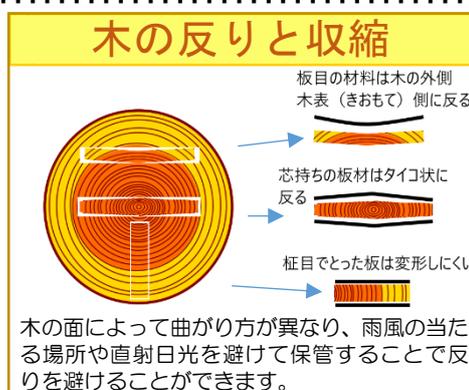


【写真2】山での伐採実習の様子

伐っていきます。倒した方向に上手く倒れ、ドシンという音が林内に響くのを聞くのほども気持ちがいいです。

森林大学校の授業は実習ばかりではなく、座学もあり、たくさんの実習や座学を通し、幅広く「森林林業」を学ぶことができます。たくさん

の講義がある中で、私が楽しいと感じるのは「木材物理学」や「木材加工学」などの、「木を使うこと」についての授業です。木材の特徴や性質、構造から始まり、使用しているうちに木が曲がったり、縮んだり割れたりしてしまうのは



【図1】参照 <https://mokuall.net/>

実際に木材の加工実験を行い、性質や変化を見る授業があり、材の種類についても学びました。例えば、集成材は、割り板（ラミナ）や幅はぎ板（と呼ばれる細い木材を接着剤でつなげて大きな柱や板にしたものですが、「森林経営」の授業で製材工場を見学し、加工の様子を見た時は、動きのおもしろさや完成

「みどりじまん新聞」は

「木育（もくいく）」の視点を持って「森と共に生きるまち“しそう”」が誇る「みどり」の魅力を発信し、森や木に関心をもってもらうことを目的としています。発行にあたっては、「兵庫県立森林大学校」の学生が執筆し、学校での学びを生かして人と木や森林との関わりを伝えてもらいます。

品の美しさに驚きました。自動で流れて来る材に接着剤が塗られ、集まった材が接着して大きな板「集成材」になっていきます。「集成材」を知らないとい、これが何本もの木の集まりであるとは気付かないほど美しいです。材を合わせることで木目が混ざり合い、自然の材では見ることができない、独特な木目となる

ところにおもしろさを感じます。他にも、樹種について学ぶ「樹木学」という授業もあり、森や街で見る樹木の違いが分かるようになります【写真3】。違いが分かってくると、スギやヒノキなどこんなにも色々な木が生えていたのか、ということに気づき、日常生活の中で今まで気にすることのなかった街路樹等の木を見るのも楽しくなります。森林大学の授業は座学の時間も多いますが、興味のあることが見つかるのではないかと思います。



【写真3】樹齢数百年の大き木を観察する様子

先生方に「木工に興味がある」と話すと、山崎町にある「学遊館」で木工ができることを教えてもらいました。学遊館の木工室は木を切ったり、加工したりするのに便利な機械がそろっていて、申し込めば使うことができます。

木工が好きな人たちが集まって、それぞれにもづくりを楽しんでおられ、木工室にある電動ろくろの使い方を教えてもらって作ったのが、木のお皿です【写真4】。きれいな木目と色をそのまま生かしたくて、ミツロウという保護塗料を塗ってみることにしました。ミツロウには撥水効果や汚れの防止、防腐効果などがあるので、日用品に使うにはぴったりです。お皿を色々な角度に傾け木目によってきらきらする光沢を見て、作品の出来栄にとっても満足しました。



【写真4】学遊館で作った木のお皿

また、保健休養学や樹木学、森林生態学などの授業で県立国見の森公園に行くこともあり、園内にある樹木の種類を調べたり、園内の様子を探してどのような環境なのか考えたりします。園の体験プログラムのお手伝いを通じて、新たな木に関する知識の習得や、人とのつながりもできました。



【写真5】体験プログラムの様子

漠然と「木が好きだな」と思って入学しましたが、森林大学校で学ぶことによって、はっきりとした木の良さを知ることにつながっています。知っ

たうえで木を伐ったたり使ったりすることで、もっと木が好きになりました。日本の木材需要は、平成21年以降、少しずつ増加しているものの、今後の人口減少による需要の減少が心配されます。また、国産材の供給は、平成14年以降、大幅に増加していますが、海外からの輸入も多く、山には伐採を待つ木がたくさんあります。そのような木材の利用方法や使い道を増やすことについて考え、これからも宍粟市で、「森林林業」を学んでいきます。

学遊館木工室の紹介

学遊館は、研修棟・実習棟・宿泊棟・全天型多目的広場等を備えた生涯学習センターです。

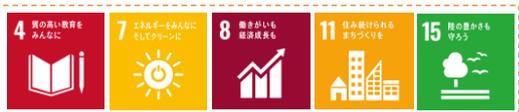


詳細は宍粟市HPへ
<https://www.shiso.city.lg.jp>

木が好きの人を育て「かきくけこ」
 木の文化を伝える



森林経営や森林林業に関わる
 人材を幅広く育成する学校
 【学校見学は随時受付中です】



木育は、「持続可能な開発目標SDGs」の実現につながる取り組みです